

Crown English Communication II, p. 19.

Lesson 2

Into Unknown Territory

Habu Yoshiharu is one of the greatest shogi players in (1)history. He is truly “King of the Board.” Here he talks with an interviewer about his experience as a professional shogi player.

—1

When did you first learn to play shogi?

In my first year of elementary school. At first, I lost (2)almost all the games, but (3)in a month or so, I began to win. In my second year, I went to a shogi *dojo* in Hachioji, where I participated in a children’s tournament. I didn’t qualify for the final, but I enjoyed the games. I wanted to become a better player, and I started to go to the *dojo* for practice.

What do you like about shogi?

As a child I found it interesting that you play with many different pieces; each piece has a different move. Also the results of a game are very clear-cut: you either win or lose. The entire game is a process of (4)cause and effect, and winning or losing is your own responsibility. Of course, it doesn’t feel good to lose, but I like shogi because it has great depth to it.

Lesson 2 – Lead

(1) history ㊦ 1, p. 924.

his-to-ry /hɪst(ə)ri/ [語源は「調べて得た」知識; story と同源]
 ((名) historian, (形) historic, historical)
 ㊦ (㊦-ries /-z/) 1 ㊦ 歴史; [[複合語で]…史; (歴)史学, (学科としての)歴史 ▶(×the) American [world] history ≡ the history of America [the world] 米国[世界]史/the deadliest disease in human history 人類史上最も致命的な病気/change the course of history 歴史の流れを変える/(recent) history suggests [shows] that... (近年の)歴史は…ということを示している/History repeats itself. 歴史は繰り返す。

- ここでは見出し語の下に, () に入れて派生語が示されているので確かめさせたい。㊦は historian (歴史学者), ㊦は historic (歴史上重要な)と historical (歴史の)の2つが挙げられており, 紙の辞書なら同じページに3語とも出ているのでチェックさせやすい。特に historic と historical は共に㊦だが意味に違いがあるので注意させる。

his-to-ri-an /hɪst(ə)riən/ (㊦発音については →historic) [→history]
 ㊦ (㊦ ~s /-z/) ㊦ 歴史学者, 歴史家; 歴史著作家; 年代記編者。

his-tor-ic /hɪst(ə)ri:k|t(ə)r-/ (㊦時に不定冠詞 an の後で /ɪst(ə)ri:k/ と発音される; historian や historical も同様) [→history]
 ㊦ (比較なし) [[通例 ㊦の前で] 1 歴史上重要な, 今後歴史に残る(出来事・場所など) (㊦historic との違いに注意) ▶a historic building 歴史的建造物/a historic moment 歴史的瞬間。
 2 (やや古) 有史の (↔prehistoric) ▶historic times 有史時代。 3 (古) = historical 1, 2。
 ◆ ~ présent 【文法】(歴)史的現在 (過去の出来事生き生きと叙述するために用いられる現在時制)。

his-tor-i-cal /hɪst(ə)ri:k(ə)l|t(ə)r-/ (㊦強勢は第2音節; →historic) [→history]
 ㊦ (比較なし) [[通例 ㊦の前で] 1 歴史の, 歴史的な, 歴史に関する; 歴史学の(研究など) (㊦historic との違いに注意) ▶from a historical perspective 歴史的観点から見れば/within a historical context 歴史の流れの中で/historical research 歴史の研究。
 2 歴史上の, 過去に実在した(出来事・事実・人など); 史実を描いた(本・映画など) (㊦実在した人・事態を描く) ▶a [an]

- 「歴史」を意味する語義 1 が㊦であることをチェックさせる。その上で教科書本文や辞書の第2用例から, 「歴史上[において]」の意味では前置詞 in が用いられることを確認させる。

Lesson 2 – Section 1

(2) almost ㊦ 1a, p. 60.

al-most /ə:lmoʊst, -s/ (㊦修飾する語の後ではしばしば /-z/; -o- は /ou/)

[al (すべての) most (大部分)] (㊦極点にあと一步で達していないことを表し, 後には極点を示す語がくる)

㊦ (比較なし) 1 a [[all, every, everything, always などの前で] ほとんど(すべて) ▶Almost all [Most] of them reached the summit. 彼らのほとんどが登頂した (×Almost of them reached the summit としない)/

- 教科書本文の almost all of the game という表現が [[all, every, everything, always などの前で] という用法指示と一致していることから 1a に導く。
- 教科書本文の類例として辞書の第1用例をチェックさせる。角かっこ [] は言い換え可能であることを示しているのので, 教科書本文の almost all of the game も most of the game と言い換えられることに注意させる。
- さらに第1用例の訳の後ろにある (× Almost of them reached the summit としない) という説明から ×almost of the game とはいわないことに触れるのもよい。

(3) in 例 9c, p. 981-82.

【時間】9a【時期】〈ある月・時代など〉(のうち)に (1) 通例 in はある程度の長さの期間を示し、時刻のように時の一点を示す場合は at; →at 2 類義; →on 例 21 語法) ▶in 2002 [April] 2002年[4月]に/in (the) winter 冬に (1) 年を明示するときは the が必要: in the winter of 2015 2015年の冬に; ↓語法) /in the morning 午前中に (↓語法); →morning 例 1) /four times in one [x] a week 1週間に4回 (1) four times a week より強意的) /in the middle of January 1月の中ごろに (1) beginning と end では at を用いる: at the beginning [end] of January 1月の始め[終わり]に /in her childhood 彼女が子供のころ (=《よりくだけて》) when she was a child) /in one's early twenties 20代初めに /Things have changed a lot in the last [past] 20 years. 事態はこの20年間で大きく変化した。

【語法のポイント】私の誕生日は11月です。
 × My birthday is November.
 ○ My birthday is in November.

【語法】特定の時を表す 図 が前に this, that, next, last, every を伴うときは通例, the previous [following] を伴うときはしばしば in は省略される ▶this [x] in this] winter この冬に /every [x] in every] morning 毎朝 / (in) the following year 次の年に。

b【必要期間】…間で ▶This is super easy. You can do it in five minutes. これはすごく簡単だから、君なら5分でやれるよ / I visited five countries in six days. 私は6日間で5か国を訪れた。

【語法】I can finish this in a week if necessary. (必要ならこれを1週間で[1週間後に]終えることができる)のように動作の終点に注目する 動 では、「…間で」(9b)または「…の後に」(9c)のいずれの解釈でも意味はあまり変わらないが、I'll read this in a week. (これを1週間で[1週間後に]読みます)のように一定期間続く行為を表す 動 では文脈によって意味が異なる場合があるので注意。

c【経過】(現在を基準に)〈ある期間〉の後に、…たつて; …以内に (《よりかたく》) within (1) 通例未来表現と共に; after との違いは →after 類義; (過去の期間の終点を示して)…後には (1) 通例過去(完了)形とともに) ▶I'll be back in [a minute [ten minutes]. すぐ[10分したら]戻ります (→minute 例 2) / I'd like a taxi in about ten minutes' time. 10分くらいいたらタクシーをお願いしたいのですが / He was dead in less than a minute. 彼は1分もしないうちに亡くなった。

【語法のポイント】私たちは数日後には出発します。
 × We'll leave a few days later [after].
 × We'll leave after a few days.
 ○ We'll leave in a few days.
 ○ We'll leave (in) a few days from now.
 (1) (in) ... from now では in はしばしば省略される; →later 例 1, after 例 1a 類義。

d【主に米】…の間のうちで (for) (→during 類義) (1) 否定文や first, last, 最上級の 例 などの後で) ▶I haven't seen her in years. 何年も彼女に会っていない / the worst hurricane in fifty years この50年間で最悪のハリケーン / the first time in [x] of] one's life 生涯で初めて。

- 多くの意味がある前置詞は、【】に入れて示されたサインポストを手掛かりに引くと、早く情報にたどり着けることを教えた。教科書本文は in a month or so と後ろに時を表す表現が続いているので、【時間】というサインポストが付いた 9a, b, c, d をチェックさせる。文脈は「試合に負けていたが、勝ち始めた」という内容なので、【経過】という用法指示のある 9c に導くとよい。
- 教科書本文の動詞(began)は過去形なので、語義後半の(過去の期間の終点を示して)という補足説明、(1) 通例過去(完了)と共にという注記を確かめさせる。「…後には」という訳語から、教科書のこの部分は「1ヶ月ほど後には、1ヶ月かそこらで勝ち始めた」という意味になることを確認させる。
- 辞書の用例や【語法のポイント】コラムを使い、「(現在を基準に)〈ある期間の〉後に」という 9c の前半の語義や語義補足、選択制限もチェックさせると理解が深まる。

(4) cause 例 1, p. 306.

cause /kəʊz/ (1) <au- は /ɔ:/
 【原義は「理由・動機」】

- 例 (例 ~s /-ɪz/) 1 (C) (良くない出来事などの) 原因, 要因; 原因になる人[物] (→effect) ▶The cause of the fire is unknown. 出火原因は不明である / determine [establish] the cause of death 死因を特定[明らかに]する / a major [leading, main] cause of car crashes 自動車事故の主要因 / a root [an underlying] cause 根本的原因 / cause and effect 因果(関係) (1) 通例無冠詞で。
- 教科書本文と同じ cause and effect という表現が 1 の第 5 用例として出ているので「因果(関係)」という意味をチェックさせる。太字用例になっていることからよく使われる組み合わせ(チャンク)であることを確認させる。
- 語義番号の後にある (C) の記号をチェックした上で第 5 用例にある (1) 通例無冠詞でという注記を参照させる。cause が「原因」という意味で使われる場合、通常は (C) だが、この表現では冠詞を伴わないことを確認させる。

Crown English Communication II, p. 20.

—2

In your professional ⁽¹⁾career, you've won over 70 percent of the games. Are you always confident when you make a move?

At times it is difficult to decide which move to make. Not having enough time to think deeply, you don't even know what your next move will be until you ⁽²⁾place your hand on the piece. This is when luck comes into ⁽³⁾play. You trust your hand to make

Lesson 2 – Section 2

(1) career ㊦ 2, p. 292.

ca·reer* /kəˈrɪər/ (㊦ca-は/kə/; 強勢は第2音節)
 【語源は「(馬車用の)運搬路」】
 ㊦㊦ (㊦s /-z/) 1 ㊦㊦ (専門的な)職業; 仕事 (㊦一般に仕事を表す job と違い, 生涯にわたって続ける仕事; →work 1 類義) ▶choose [pursue] a **career** in teaching 教職を選ぶ[に従事する]/make a **career change** [move] 転職する/begin one's **career** as an actor [acting **career**] 俳優として仕事を始める。
 2 ㊦㊦ (仕事などに従事した)経歴, 履歴, 職歴 ▶at the peak of one's **career** 仕事が絶好調の時に/have a brilliant [successful] **career** as a nurse 看護師としての輝かしいキャリアがある。

- 「キャリア」というカタカナ語からの類推で発音を間違いやすいので, 見出し語の横にある(㊦)ca-は/kə/; 強勢は第2音節という発音注記をチェックさせる。こういったカタカナ語と英語との音声の乖離は, センター試験などでもよく出題されることに触れてもよい。
- 教科書本文では完了形を使って「あなたは対戦の70%以上勝っている」と述べていることを確認させる。この文脈から「プロとしての経歴の中で」という語義2の意味になることを確かめさせる。
- career が「仕事」を意味する場合, job とどう違うのかが語義1の㊦に説明されているのでチェックさせるのもよい。さらに→で参照指示が示されているので, work㊦1の類義コラムを読ませると, 「仕事」を表す名詞(work, occupation, job, profession, career)の違いについて理解が深まる。

類義 work と occupation, job など
 work は収入を得る「職業」全般を表す語で, 公式文書などの《ややかたく》では occupation が用いられる。job は被雇用者として収入をもらう職業のこと。profession は医師などの(高度な)専門職をさす語。career は経歴として一生携わる(つもりの)職をいう。

(2) place ㊦㊦ 1, p. 1445.

㊦㊦ (㊦s /-ɪz/; ㊦d /-t/; placing)
 ㊦㊦ 1 《ややかたく》[place A + ㊦㊦] (ある場所に)(注意して)A (物)を置く, 据える, 設置する (㊦㊦は場所の表現; 日本語と違って ㊦㊦は省略不可能; →put 類義) ▶place the vase in the center of the table テーブルの中央に花瓶を飾る/place a hand on one's stomach お腹に手を当てる。

- 教科書本文では名詞ではなく, 動詞用法であることをまずチェックさせる。目的語の your hand に続いて, 場所を表す句 on the piece が続いていることから, [place A + ㊦㊦]という文型表示のある語義1を参照させる。
- (㊦㊦)は場所の表現; 日本語と違って ㊦㊦は省略不可能; →put(類義)という記述に注目させる。英語では必ず「Aを…に置く」という目的語と場所の両方が必要であることを確かめさせる。さらに→で参照指示がされている put の類義コラムには, よく似た動詞の意味合いの違いが説明されているので確認させる。教科書本文は「駒をきちんと将棋盤のマス目に置く」という意味になるので, ここでは place がふさわしいことを理解させる。

類義 put と lay, place, set
 put は最も一般的な語で漠然と何かを置く行為をいう。lay は ㊦ lie に対応する ㊦で何らかの目的で注意深く横あるいは平らになるように置くこと。place は《ややかたく》で配置に気をつけて注意深く置くこと。set は《書》で特に後に何らかの目的で使うために配置に気をつけて置くこと。

(3) play ㊦㊦㊦ come into play, p. 1451.

come into play (要因・力などが)作用[影響]し始める。

- 前置詞 into に続いて-ing 形の playing ではなく play が使われているので, この表現では play は㊦㊦ではなく㊦㊦㊦であることを確かめさせる。
- ㊦㊦㊦になっているので, 意味をチェックさせ, 教科書本文が「運が作用[影響]し始める」という意味になることを確認させる。
- 紙辞書なら(2)の place の数ページ先なのですぐに調べさせることができる。

Crown English Communication II, p. 21.

a good (1)choice. So, to answer your question, I'm not always confident when I make a move.

"I've heard that professional shogi players can think hundreds of moves ahead. Am I correct?"

Well, I'm not so (2)sure about that. A group of shogi players were (3)discussing whether or not you could predict what the game would be like 10 moves from now. They all agreed you could not. In playing shogi, you need to make a decision every time you make a move. As I said before, it's not always the case that you have (4)full confidence; (5)rather, you are thinking that this is probably the right move. Your opponent may in turn make a move which you do not expect, and this process goes on until the game is over. What's most important is your decision-making power.

(1) choice 図 1, p. 333.

choice* /tʃɔɪs/ [→choose]

— 図 (㊟) ~s /-ɪz/) 1 ㊟ «…間の/…からの» 選択; ㊟ «…間で/…から» 選ぶこと «between/from (among), among» (→selection 類義) ▶have freedom of choice 選択の自由がある/He was forced to make a choice between his career and his dream. 彼は仕事と夢のどちらを取るか迫られた/be given a difficult choice 難しい選択を迫られる/make an informed choice (情報に基づいた)納得のいく選択をする。
2 ㊟ 選択権, 選択の自由, 選択能力, 選択の機会 (㊟具体例では a ~) ▶If I had the choice, I'd like to live in London. もし選択の自由があるなら私はロンドンに住みたい/You have no choice in this matter. この件について君には選ぶ権利がない/There is a choice of [×among] red or white wine. ワインは赤か白を選べます/The choice is yours. ≒It's your choice. 決めるのは君だ。
3 ㊟ [[通例単数形で] 選ばれた人[物]]; [[the ~]] 選り抜き ▶He was the obvious choice for team captain. 誰が見ても彼はチームの主将として選ばれるべき人物だった/This hotel wasn't my first choice. このホテルは私の第1希望ではなかった/This book is the best choice for beginners. この本は初心者にとってだ。

- make a good choice と不定冠詞が付いていることから, ㊟である語義 1 と 3 に注目し, 用例を較べさせる。make を使った用例(第2, 4用例)があり, その用例訳の「取る, 選択する」という意味が教科書本文の文脈と合うことから語義1になることを確認させる。
- 教科書同ページ4行目にある make a move も同様だが, 「make+不定冠詞+名詞」(ここでは make a choice, make a move)が動詞(ここでは choose, move)と同じような働きをすることを理解させたい。make ㊟7a と, その後の語法 表現 コラム (pp.1164, 65)に詳しい説明や類例が多く出ているので参照させると, make a decision (教科書 p. 21, 23 行目, p. 22, 1 行目にあり), make a mistake などの頻繁に使用される表現もチェックさせることができる。

【…する】7a [make an A] Aをする, 行う (㊟(1) Aは主に動詞派生の ㊟で強勢を受ける。(2) Aは ㊟によっては各種の ㊟や不定冠詞を伴ったり複数形で用いられることもある。(3) Aを主語にした受け身が可能; ↓ 語法; → take 3a 語法
【コバスの窓】▶Rosa has made a decision to stay with me. ローザは私と一緒にいることに決めた (≒《よりかたく》Rosa has decided to stay with me.)/Oh God, what a fool. I've made a mistake. ああ, なんてばかだ, 間違えてしまった (㊟(1)この場合, ×…I've mistaken. としない。(2)過去の誤りをわびる場合は過去形: I'm sorry. I made a mistake. 申し訳ありません, 誤りを犯しました)/Every effort has been made to provide reliable information. 信頼のおける情報を提供するためにあらゆる努力がなされた/We made the right choice. 我々は正しい選択をした。

語法 (1) 1語の ㊟と違って1回限りの完結した行為を表し, より(くだけで)響くことが多い。
(2) love, use, progress など一部の ㊟名詞を従えることがある ▶make use of modern technology 近代的技術を使用する (㊟この場合 ㊟ use の方がくだけた言い方)。
(3) この表現での make は意味的に do に類似するが, 目的語によって make が用いられない場合がある (→do¹ ㊟3) ▶do [×make] one's homework [best] 宿題をする [最善を尽くす]。

表現 コバ Aに現れる主な ㊟ ▶announcement, appearance, appointment, (phone) call, change, choice, claim, commitment, contribution, deal, decision, effort, gesture, joke, mistake, move, note, offer, point, promise, reservation, run, speech, start, statement, wish.

(2) sure ㊟ 1a, p. 1897.

sure* /ʃʊə, fə:r|ʃɔ:/ [語源は「心配のない」]
(副) surely

— ㊟ (~r /ʃʊərə, (英) fɔ:rər/; ~st /ʃʊərest, (英) fɔ:rəst/more ~; most ~)
1a [be sure (that) 節] (人が) ……ということを確信している, …に自信がある; [be sure of A/about A] (人が) A (事) を確信している。Aを間違いないと判断する (certain) (⇔doubtful) ▶I'm sure he will like you. 彼はきっと君が気に入るよ/You can be sure of one thing—she's lying to us. はっきり言えることが1つだけある。それは彼女が僕たちにうそをついているということだ/He is sure of winning first prize. ≒He is sure that he will win first prize. 彼は(自分が)1位になれると確信している (㊟話し手ではなく文の主語 (He) の確信を表す; ↓ 5 第1例)/"Are you sure about that?" "I'm positive." 「それは確かですか」「間違いありません」。

- 教科書本文では about が続いていることから [be sure of A/about A] という文型表示のある 1a に導き, about の他に of も使われることを確認させる。
- 訳語の後に (certain) という記述があることに注意させ, () に入れて同義語が示されていることに触れる。さらに, 続く (⇔doubtful) という記述は反意語を示していることも確認させる。
- 辞書の第4用例が教科書本文に似た会話例になっているのでチェックさせる。

(3) discuss 動④ 1, p. 536.

dis·cuss* /diskʌs/ [語源は「(言葉を)振って粉々にする」] ((名) discussion)

— 動 (～es /-ɪz/; ～ed /-t/; ～ing)

— ④ 1 (人が) «人などと» (物・事) について話し合う, 討議 [論議, 議論] する; [discuss wh 句・節] …かを話し合う «with» (1) 目的語は ④ (動名); × that 節は用いない. (2) talk about A とはば同意だが × discuss about A としない) ▶ I discussed the possibility of marriage with her. 私は結婚の可能性について彼女と話し合った/discuss how to handle this issue この問題の扱い方を議論する/The matter was widely discussed. その件は広く論じられた.

類義 discuss と argue, debate, dispute など
 (1) discuss は《ややかたく》で, 結論に到達するために冷静に議論すること. argue は証拠に基づいて自分の意見を主張すること. debate は公的な問題について対立する意見を述べ合うこと. dispute は意見を対立させてやや感情的に議論すること. 以上4語のうち discuss のみが ④ で, ほかに ④ ⑤ いずれの用法もある. talk about [(《ややかたく》) of]… は深刻[重要]な事について話し合うこと. talk ... over [over ...] は特に合意・決定のため徹底的に議論すること.
 (2) これらのうち, argue と dispute のみが that 節を従える. 前者は「…と主張する」, 後者は「…ということに異を唱える」を意味する.

- 教科書本文では whether を使った節が discuss に続いていることをチェックさせて, [discuss wh 句・節] という文型表示のある 1 に導く. whether を用いているので「…かどうかを話し合う」という意味になることを確かめさせる。
- ❗ を使った注記の(2)にある「× discuss about A としない」という部分に注意させる。talk about A から誤って about を用いる生徒が多いので, 他動詞であることを再確認させる。
- 類義** コラムには, discuss の類義語が意味合いの違いや文法的特徴を含めて説明されているのでチェックさせる。

(4) full 形 2a, p. 777.

full* /fʊl/ [原義は「(すき間なく)いっぱい満たす」] ((副) fully)

— 形 (～er; ～est/2 a, 9, 10, 11 は比較なし)

1 a (容器・場所などが) いっぱいの, 満杯の (up) (← empty); [be full of A] A (物・人など) で満たされた, 満ちた; A がたくさんある [いる] (逆語) almost, nearly, completely, absolutely) ▶ The fridge is full of food. 冷蔵庫は食べ物でいっぱいだ/a basket full of apples かごいっぱいのリンゴ/The box was stuffed [crammed] full of books. その箱には本がぎっしり詰められていた/The bar was half [completely] full. バーは半分ぐらいの入りだった[満杯だった] (1 one third full (1/3の入りだった)のように半分以下でも用いられる)/a full glass いっぱいに入ったグラス/Don't speak with your mouth full. たくさん頬張ったまましゃべるな/be full to the brim あふれんばかりにいっぱいである/be full to bursting (英) いっぱいではちきれそうだ.

b [be full of A] A (感情など) でいっぱい; A をいつも考える [話す]; A に没頭する ▶ be full of surprises [fear] 驚きでいっぱいである[不安に満ちている]/be full of oneself うぬぼれている/be full of plans for the summer vacation 夏期休暇の計画で頭がいっぱいである.

2 (→ complete 類義) **a** [④の前で] 完全な, 最大の; 満杯の; 丸々の ▶ run at full speed 全速力で走る/remain in full force 完全な効力を有する (1 契約書で)/on full alert 万全の警戒態勢で/run the engine up to full power エンジンを全出力まであげる/full price 正規価格/a full refund 全額返金/dry timber [a full two [two full] years 木材を丸2年乾燥させる/in full view of the passersby 通行人から丸見えて.

- full confidence と名詞の前で使われていることから, [be full of A] の語義 1a, 1b ではなく, [④の前で] という用法指示のある語義 2a であることを確かめさせる。
- 「完全な, 最大の」という訳語から, 教科書本文が「完全な自信, 自信満々」という意味になることを確認させる。

(5) rather ④ 4, p. 1555.

4 [[訂正]] (正確な情報を付け足して) **正確に言う**と、と言うよりむしろ (1) しばしば or rather); それどころか (2) 後続する内容を強調する; → actually (読解のポイント) ▶ I couldn't go there, **or rather** I didn't want to. 私はそこに行けなかった、というか正確に言えば行きたくなかった/I don't need your help. **Rather**, I want to do it by myself. 助けはいりません、それどころか自力でやりたいのです。

- 教科書本文が文頭で **Rather, ...**と始まっていることに注意させる。[[]]を使った文型表示や[[]]を使った用法指示をチェックさせ、語義 **1, 2, 3, 5** とは特徴が合わず、語義 **4** が最も適切であることを確かめさせる。

る) **1** [A rather than B/ rather A than B] **B**よりもむしろA, BというよりはA (1) A, Bは文法上同等な (名詞動詞) や句, 節; ↓ 2-1/2の窓(1); → not so much A as B) ▶

2a [would rather do (than do)] (...するより) **むしろ…したい**, …した方がいい (1) (1) (〈くだけた話〉) ではしばしば 'd rather の形で, (2) prefer to do (rather than (to) do) と違って to do は通例従えないが (〈くだけて〉) では (まれ) に would rather do than to do の形をとることがある; → prefer ① **1 b**. (3) had rather ... は (まれ) ▶ I would rather stay

b [would rather (that) 節] **むしろ…だといいのに** (1) that は通例省略; (that) 節内は仮定法) ▶ We would rather

3 (主に英) [[通例肯定文で] **かなり**, 相当; **やや**, いくぶん, 思ったより (1) 程度に段階がある (形動名動) を修飾して).

a [rather + 形/副/動] ▶ His hair is **rather** long. 彼の

b [a rather + 形 + 名/ rather a (+ 形) + 名] (1) 前者の方が普通で, 後者は若干強意的; ↓ 語法 ▶ She has **a**

5 [[同意]] (英語・ややかたく・やや古) (肯定の答えを強めたり, 提案を快く引き受けて) **もちろんだ**, **そうだと** ▶ "Did you ever

- 訳語だけではなく、大まかな意味を示した [[訂正]] という記述や、() で示された (正確な情報を付け足して) といった補足説明も確認させる。教科書のこの部分では「必ずしも完全な自信があるというわけではない。それどころか、(むしろ正確にいうと)(あなたは)これがおそらく正しい手だろうと考えている」という意味になることを確認させる。

Crown English Communication II, p. 22.

—3

When you make a decision, are there times when you depend on your intuition?

Yes, I ⁽¹⁾believe in intuition. In my experience, about 70 percent of the moves based on intuition ⁽²⁾turned out to be correct. Being able to anticipate a lot of moves is important, but what's more important is to be able to focus your ⁽³⁾attention on a few good moves. And that's where you need your intuition. But remember, you gain intuition only through lots of experience.

Do you ⁽⁴⁾spend a lot of time studying strategies from the past?

It's important to learn various strategies. But

Lesson 2 – Section 3

(1) believe 動成句 **believe in A**, p. 178.

believe in A (1) A (神・架空の人・奇跡など)の存在を信じる, Aがいると思う ▶believe in God [life after death, magic, ghosts] 神[死後の世界, 魔法, 幽霊]を信じる (in は省略しない). (2) A (考え・方針・教義など)を「…として」良い[正しい]と認める, 支持する, 是認する «as» (Aは 図 動名) ▶believe in democracy [the theory] 民主主義[その理論]を支持する/believe in being kind 親切であることをよしとする. (3) A (人(の人柄・能力・判断))を信頼する: [[~ oneself (as B)] (B(役割)として)自分に自信をもつ ▶I believe in you, Ed. エド, 君を信頼しているよ (人格などをいう; ↑ 1).

- 単に「…を信じる」ではなく, in が付いて成句になると「A (神・架空の人・奇跡など)の存在を信じる」となることに注意させる。
- 山形かっこ 〈 〉 には, 一緒に用いられることの多い目的語に関する情報(選択制限)が示されていることに触れ, 「神・架空の人・奇跡」などの「存在が捉えにくいもの」が来ることを理解させる。教科書本文では intuition (直感)という語が使われているので, 「私は直感というものを信じている」と言っていることを確認させる。

(2) turn 動成句 **turn out**, p. 2041.

turn out (1) [[~ out (to be) C]] (物・事が)結局Cになる; Cだとわかる, 判明する (Cは 図) ▶Everything turned out well [all right, fine]. 結局すべてがうまくいった/I thought I knew everything, and it turned [turns] out (that) I knew nothing at all. ≙ (話) ... everything. Turns out 私はわかっているつもりだったが結局何もわかっていなかった (1) it is that 節をさす形式主語; →it 4 文法. (2) 現在形ではたった今わかったことを示す; その際(話)では it が省略されることがある/The trouble turned out to be more serious than we had thought. 問題は我々が考えていたより深刻なものだとわかった/The morning was rainy, but the afternoon turned out nice. 朝は雨模様だったが午後は晴れた/He was very sick, in what turned out to be the last week of his life. 彼の具合が非常に悪かったのは, 彼の人生最後の1週間となる週であった/I needn't have hurried, as it [things] turned out. 急ぐ必要はなかったんです, 結局は. (2) [[~ out + 動]] (物事が)進行する ▶turn out well うまくいく. (3) «行事などに/…しよう」と出かける, 繰り出す «for/to do». (4) 外側に向く[曲がる]. (5) (くだけて) ベッドから起き上がる.

- よく使われる成句であり, 意味と形をしっかりと理解させたい。教科書本文は turn out to be correct となっていることから, 用法指示が [[~ out (to be) C]] となっている(1)を参照させる。
- (Cは 図) という注記から, 教科書本文では C にあたるのが形容詞の correct であることを確かめさせる。「結局 C になる, Cだとわかる」という訳語から, 「直感に基づいた手の 70%は正しいとわかった」という意味になることを確認させる。
- [[~ out (to be) C]]の(to be)は省略可能な要素を示していることを確かめさせる。理解を深めるため, to be が使われている辞書の第3用例と省略されている第4用例をチェックさせる。

(3) attention 図 1a, p. 126.

at-ten-tion* /ə'tenʃ(ə)n/ [→attend]

— 図 (㊟) ~s /-z/ 1 ㊟ a «…に対する» 注意(力); 関心; 興味 «to» ▶ You should **pay attention to** how much you eat. 食べる量に注意した方がいいですよ/John [didn't **pay** much [paid no, didn't **pay** any] **attention (to detail)**. ジョンは(細かい点には)あまり[少しも]注意を払わなかった/turn one's **attention back to** the TV テレビに再び注意を向ける/give A one's (full [undivided]) **attention** Aに(細心の)注意を払う/focus **attention on** A Aに注意を注ぐ/attract [draw, get] public [media] **attention** 世間[マスコミ]の関心を引く/draw [call] (A's) **attention to** B Bに(Aの)関心を向けさせる/divert [distract] **attention from** A Aから注意をそらす/hold [keep] A's **attention** Aの関心を引きつけておく。

- よく使われる名詞は意味だけでなく、共に使われる語との自然な結びつき(コロケーション)を調べさせたい。教科書本文と同じ focus, on を使っている語義 1a の第5用例を参照させ、ここでは「注意を 2, 3 の良い手に集中させる」という意味になることを確認させる。
- 共に使われることの多い前置詞が二重山形かっこ« » で示されているので確かめさせる。「«…に対する»注意, 関心」と表現する場合は«to»を用いることをチェックさせ、辞書の第1, 2, 3, 7用例で to が使われていることを確認させる。
- 辞書用例のうち太字になっている動詞とのコロケーション(pay attention, attract [draw] attention など)は、スピーキングやライティングなど発信に生かせる重要表現として確かめさせる。

(4) spend 動㊟ 2, p. 1821.

2 «ある目的に/…するのに» 「時間」を費やす, かける «on/(on [in]) doing»; «ある場所で/人と» 「時」を過ごす «in, at/with» ▶ spend two hours on homework 宿題に2時間かける/spend a week (in) writing a paper レポートの作成に1週間を費やす (1 動名) を従える場合, 動は省略されることが多い/spend a sleepless night 眠れぬ夜を過ごす/spend Christmas in Hawaii [with one's family] ハワイで[家族と]クリスマス過ごす。

類義 spend と pass
 spend は通例はっきりした目的を持って時を過ごすことを示す日常語, pass は《ややかたく》で, 退屈しのぎに時間をつぶすことをいう, また pass には時間を主語にして「(時が)過ぎる」という ㊟ としての用法もある。

- 意味の把握には問題はないと思われるが、山形かっこく) で示された目的語(選択制限)や、二重山形かっこ« » で示された共に使われる前置詞などを調べさせて、実際に spend という語を使いこなすための知識を定着させたい。教科書本文の目的語が a lot of time であることから、語義 2 の「〈時間〉を費やす」の意味になることを確認させる。辞書の第1, 2用例にある時間の表現もチェックさせる。
- «ある目的に/…するのに」と表現するには、spend に続けて«on/(on [in]) doing»を用いることをチェックさせ、教科書本文と辞書の第2用例を比較させる。辞書用例が(in) となっていることから in は省略可能な要素であることに触れ、教科書本文では前置詞が省略されていることを確かめさせる。
- pass との違いが類義に説明されているのでチェックさせるのもよい。

Crown English Communication II, p. 23.

knowing strategies is one thing, and being able to win a game is quite another. What you need is to change your knowledge into wisdom by truly understanding the meaning of the strategies.

You sometimes surprise your opponent by making unexpected moves. Are they ⁽¹⁾effective in winning the game?

Not ⁽²⁾necessarily. If you try something new, the ⁽³⁾chances are that you will fail more than 50 percent of the time. If you play it safe, you may be able to maintain a higher winning percentage for a while, but you cannot keep winning 10 years from now. And ⁽⁴⁾eventually you end up losing your creativity. It's more fun trying something original.

(1) effective ㊦ 1, p. 605.

ef·fec·tive* /ɪfektɪv/ [→effect]
 ((副) effectively)
 ㊦ (more ~; most ~) 1 «…に対して/…するのに» (物・事が) 効果的な, 有効な (㊦ effectiveは期待・意図した通りの効果が得られることに, efficientは無駄がなく能率・効率が高いことに重点がある); (治療法・薬などが) 効き目のある «against/in doing»; (人・機械などが) 有能な, 性能のよい (↔ ineffective) ▶ a highly effective way of spending time 非常に効果的な時間の使い方/Extra vitamins are effective in preventing diseases. さらにビタミンを摂れば病気の予防に効果がある。

- 教科書のこの部分は「意外な手で対戦相手を驚かせる」話をしてしているところなので, 語義 1 の「効果的な, 有効な」が文脈に合うことを確認させる。
- 二重山形かっこを使って, 訳語の前に«…に対して/…するのに», 後に«against/in doing»と示されているのに注意させる。スラッシュ(/)で区切られた前半と後半がそれぞれ対応しているので, 「…に対して」という場合は against を「…するのに」という場合は in doing を用いることを確かめさせる。教科書本文では in winning the game と in doing の形を使っているので, 「対戦に勝つのに効果があるか」と聞いていることを確認させる。
- effective と efficient の違いが ㊦ で示されているので確認させる。さらに紙の辞書なら同ページ右に efficient が出ているのでチェックさせるとよい。

ef·fi·cient* /ɪfɪf(ə)nt/ (㊦ 強勢は第2音節)
 [ex (完璧に) ficient (作り出された)]
 ((名) efficiency)

㊦ (more ~; most ~) 1 (機械・方法・制度などが) 効率のよい, 能率的な: [複合語で] …を効率よく使う (→effect) ㊦ 1; ↔ inefficient ▶ an efficient transport system 効率のよい輸送システム/make efficient use of money お金を効率的に使う/a fuel-efficient car 燃費のよい車。

(2) necessarily ㊦ 成句 not necessarily, pp. 1276-77.

not necessarily 必ずしも…でない (㊦ 部分否定; →not ㊦ 文法): [単独で返答に用いて] そうでもない ▶ A lower price does not necessarily mean [imply] a better buy. 安価な物が必ずしも買い得だとはいえない/"Any luck?" "Not necessarily." 「うまくいったの」「それがそうとも言えないんだ」。

- necessarily の ㊦ 成句 はこれだけなので時間をかけずに調べさせることができる。[単独で返答に用いて]という用法指示があり, 教科書本文と一致していることに触れ, 「(必ずしも)そうでもない」という意味になることを確認させる。

- 辞書の第 1 用例は文中に使われている例, 第 2 用例は教科書本文と同じ単独で返答に用いられている例なので違いをチェックさせる。

(3) chance ㊦ 1b, p. 315.

b [[しばしば~s]] «…に対する/…する/…という» そうなりそうなこと, 公算 (probability); [[one's ~s]] 勝算, 勝ち目 «against/of doing/that 節» (㊦ ~s の形でより高い可能性を暗示) ▶ What are his chances of success [the chances that he will succeed]? 彼の成功の見込みはどうか (×... his chances to succeed? としない)/The chances are ten to one that he will fail. たぶん[十中八九]彼は失敗するだろう/The chances [Chances] are that Mary will get a promotion. ≒ Chances are(.) Mary will get a promotion. (㊦ だけで) ひよっとするとメリーは昇進するかもしれない (≒ It is likely that ...)/My chances look good. 私に勝ち目はありそうだ。

- 1b の第 3 用例が教科書本文と同じ形であることを確認させる。用例の訳を参考にして, 「たぶん 50%以上の確率で失敗するだろう」「ひよっとすると半分以上の確率で失敗するかもしれない」という意味になることを確かめさせる。太字用例であり, よく使われるチャンクであることにも注意させる。
- 1b の用法指示[しばしば~s]をチェックさせる。「公算; 勝算」という意味では複数形でよく用いられることを確かめさせる。

(4) eventually ㊦, p. 648.

e·ven·tu·al·ly* /ɪvɛn(t)ʃu(ə)li/ [→event]
 ((形) eventual)

㊦ (比較なし) [[結末]] (一連の出来事について) 結局, ついに: (将来の状況について) 最後には, ゆくゆくは (㊦ 否定文には用いない; 順番が「最後に」の意味では finally を用いる) ▶ Eventually, I managed to persuade him to give up the plan. 結局なんとか説得して彼にその計画をあきらめさせた/"Did he come?" "Eventually, yes." 「彼は来たの?」「ええ, 結局ね"/The drug will eventually be available to anyone. ゆくゆくはその薬は誰でも入手できるようになるだろう。

類義 eventually と finally, at last

- いろいろな事が起こった末の結末を述べるが, そこに至るまでの過程の困難さなどを表す場合は finally を用いる。
- 話し手のいらだちや安堵(*)などの感情を伝える場合は, at last が好まれる。

- 大まかな意味を表す[[結末]]という記述に注意させる。教科書のこの部分では「しばらくの間は高い勝率を維持できても 10 年先も勝ち続けることはできない。そして(結末として)結局[ゆくゆくは]…」と述べていることを確認させる。
- 「結局」と訳することができる finally, at last との違いが 類義 に説明されているのでチェックさせる。

Crown English Communication II, p. 24.

—4

We all know that you have a great talent. How do you define your talent?

Well, if I have any talent, it's ⁽¹⁾perseverance. Being able to anticipate the moves or having inspiration is important, but working hard to improve your shogi is the greatest talent you can ⁽²⁾ever have.

You seem to be in love with shogi. What's the most fascinating aspect of this game?

In the history of shogi, hundreds of thousands of games have been played, and yet we only know a small portion of the world of shogi. Each time I

Lesson 2 – Section 4

(1) perseverance 図 1, p. 1421.

per-se-ver-ance† /pərsəviə(ə)ns/ 図 1 (ほめて) 我慢強さ, 不屈(の努力), がんばり (→persistence). 2 [神学] 堅忍恩恵, 窮極救済.

- ・ 語義 1 の(ほめて)という記述に注意させ、良い意味での「粘り」である「我慢強さ, がんばり」を指すことを確かめさせる。
- ・ (→persistence)と参照指示があるので調べさせる。紙の辞書なら同ページ右側にあるので、すぐにチェックできる。「根気よさ, がんばり, 粘り強さ」という訳語の後ろに(perseverance)とあり、この2語が同義であることを確かめさせる。さらに、persistenceの語義の後半は「頑固さ, しつこさ」とあり、perseveranceにはない悪い意味での「粘り」も指すことに注意させる。

per-sist-ence† /pərsɪst(ə)ns/ 図 1 根気よさ, がんばり, 粘り強さ (perseverance); 頑固さ, しつこさ ▶with persistence 粘り強く; しつこく. 2 [the ~] (望ましくないこと)の永続, 持続性; 残存 ▶the persistence of a headache 頭痛の持続.

(2) ever 図 4, p. 649.

【強調】 4 [[比較級・最上級の後で] かつて, 今まで(に); まさに (1) 最上級のほかに first, last, only など強調) ▶You seem *happier* now than *ever* (before). 以前にも増して幸せそうだね/It was the *coldest ever* winter [*coldest winter ever*] since records began. 観測史上最も寒い冬だった/He is the *greatest* boxer that [who] *ever* lived. 彼は史上最強のボクサーだ (×... that ever lived before. としない)/She was the *last* [only] woman *ever* to talk with Dr. Einstein. 彼女はアインシュタイン博士と言葉を交わした最後[唯一]の女性だった.

5 (米話) [[疑問形式の感嘆文で] ひどく, たいそう (→what 図 2 **【文法】**) ▶Was she *ever* angry! 彼女が怒ったのなんのって (= She was extremely angry.)/"Do you like her?" "Do I *ever*!" 「彼女のこと好きか」「大好き!」 (= Yes, very much).

6 (主に英) [[疑問詞を強調して] いったい; とても (1) **【文法】** which, whose を除く疑問詞を強調して驚き・怒りなどを表す) ▶Who *ever* is at the door at this time? こんな時間にドアの所にいるのはいったい誰だ (1) (1) whatever, wherever などのように1語でつづることもあるが, × *whyever, however* としない. (2) (くだけた話) では ever の代わりに the hell, on earth などを用いることもある.

- ・ ever の強調用法を調べさせたい。サインポストの**【強調】**がついた語義 4, 5, 6 に注目させる。それぞれ**【]**を使って用法指示があるので、教科書本文はどの用法か調べさせる。the greatest talent you can ever have と形容詞の最上級と共に用いられていることを確認させて語義 4 へと導く。
- ・ 辞書の第 2, 3 用例が教科書本文と同じく最上級を使ったものになっているのでチェックさせる。
- ・ 教科書の次ページ 16 行目には、最もよく使われる ever の用法である語義 1 (これまでに, かつて)が出て来るので、辞書の第 1 用例と共に確認させておくのもよい。

ev·er† /évar/ [原義は「いつでも (always)」]

— **【]** (比較なし) (1) **【文法】** 通例一般動詞の前, be 動詞・最初の **【]** の直後に置く) **【]** いまだかつて 1 [[疑問文で] (過去について) これまでに, かつて, いつか (↓ **【]** の窓); (現在について) いつも, ふだん; (主に話) (未来について) これから先, いつか (at any time) ▶Have you *ever* been to Spain? スペインに行ったことがありますか (1) **【]** 具体的な経験の有無を尋ねる; 肯定の返事は Yes, I have. や Yes, *once* [for a week two years ago]. (はい, 1度 [2年前に1週間] 行ったことがあります) とし, × Yes, I have ever been there. のように ever を用いない (↓ **【]** のポイント). 否定の場合は No, I haven't. や No, never. のように答える; 現在すでにスペインに来ている人に対しては Have you been here before? を使う)/Have you *ever* thought of getting married? ≒ Did you ever think of getting married? 結婚しようと思ったことがありますか (↓ **【]** の窓)"/"Do you [[くだけて] D'you] *ever* play

Crown English Communication II, p. 25.

play, I feel like I am starting on a ⁽¹⁾journey into unknown territory. And that's what's fascinating about shogi.

Have you ever thought about what you would be doing if you were not a professional shogi player?

I have never really thought about that. Forced to take another ⁽²⁾job, maybe I would like to be a taxi driver for a day. I think that's an interesting job because you don't know where you will go each day.

Do you have a motto that you live by?

Fortune smiles on the ⁽³⁾bold.

(1) journey 図 1a, p. 1043.

jour·ney ¹ /dʒɜːni/ [語源は「1日 (jour) の仕事・旅」]
 ① ② ~s /-z/ ③ 1 a «…から/…への» (通例陸上で長距離・長時間の) 旅行, 旅 «from/to» (① 過程に重点があり, 時に苦勞・困難を伴うことを暗示; →trip 類義) ▶begin [start (on), go on] a long *journey* to London ロンドンへの長旅に出かける/make [take, have] a train [500 mile] *journey* through Europe ヨーロッパを鉄道で[500マイルにわたり]旅する/be on a *journey* 旅に出ている/the return [outward] *journey* 復路[往路]/*break one's journey* (英) (休憩などで)旅を一時中断する/Bye! *Safe journey!* (主に英) いってらっしゃい, ご無事で.

- ・ 語義 1a には「(通例陸上で長距離・長時間の)旅行, 旅」とあるので, 訳語だけではなく()内の意味の補足説明も確かめさせる。
- ・ (① 過程に重点があり, 時に苦勞・困難を伴うことを暗示; →trip 類義) という注記をチェックさせる。教科書本文では「見知らぬ領域へ旅立っている (I am starting on a *journey* into unknown territory)」とあり, 「簡単にはたどり着かない未知の場所への旅」という意味合いがあることを確認させる。
- ・ →trip 類義 とあるので, 「旅」を表す単語をあらかじめ思い浮かべる (trip, travel, journey など) よう促してから trip の類義コラムを参照させる。同じ「旅」でも違いがあることがわかるのでチェックさせるとうい。

類義 ▶ trip と tour, travel, journey, voyage
 trip は距離の短い外出・旅行から長期の海外旅行まで幅広く用いられ, 通例帰って来ることを暗示する。頻度・回数などを表す数詞とも相性がよい。tour は見学・視察目的で各地を巡り元の場所へ戻るような周遊旅行をいい, しばしば案内人を伴う。travel は ③ で, 主に仕事・娯楽目的での長距離の旅を漠然とさす, ① の前で形容詞的に用いられることが多い。複数形は娯楽目的で海外など遠方の各地を訪れる一連の旅を示す。journey は通例陸上の長距離・長時間の旅を表し, 必ずしも帰ることを暗示せず, (米) では文語的に響く。旅の過程に重点があり, 時に苦勞・困難を伴うことを暗示し, しばしば人の心理状態を表すような ② と共に用いられる。voyage は (主に書) で, 海・宇宙の長い旅行をさし, 時に運命的な旅であることを暗示する。

(2) job 図 1, p. 1039.

job ¹ /dʒɑː(b) dʒɔːb/ [語源は「口 (mouth)」]
 ① ② ~s /-z/ ③ 1 (収入を稼ぐための) 職, 職業: 勤め口 (① (1) 職業を表すだけた語で《ややかたく》は occupation. (2) post³, position は支配人などの要職を, profession は医師などの専門職をさす; →vocation, trade, work 1 類義) ▶Emma *took* [found, got] a *job* as a reporter at a TV station. エマはテレビ局の記者の職を引き受けた[見つけた, 得た]/offer A a *job* A (人) に勤め口を与える/apply for a *job* at a restaurant レストランの仕事に応募する/lose [quit] a *job* 職を失う[辞める]/a teaching *job* 教職/a *part-time job* アルバイト[非常勤]の職/a well-paid *job* 給料のいい仕事/a *temporary* [permanent] *job* 臨時の職[定職]/change *jobs* 転職する.

- ・ journey を引いた直後なら数ページ前なので, すぐに参照させることができる。基本的な単語なので, 共に使う動詞を調べさせて, 発信活動に役立つよう指導したい。まずは教科書本文と同じ動詞が辞書の第1用例に使われているので, take a job が「仕事を引き受ける, 職に就く」の意味になることを確かめさせる。
- ・ 辞書の第1用例は[]を使って, 他の動詞も挙げてあるので注意させる。辞書ではしばしば[]を使って書き換え可能な表現を表すことに触れ, find, get がそれぞれ「職を見つける, 得る」の意味で job と共に用いられることを確かめさせる。
- ・ その他の辞書用例のうち, 特に太字になっているものはよく使われるチャンクとして確認させる。

(3) bold ㊦ 1, p. 217.

bold* /boʊld/ (㊦-o-は /ou/)
[3]の意は19世紀後半から] ((副) boldly)
 ㊦ (～er; ～est/3は比較なし) 1 (人・行為が) 恐れを知らぬ, 大胆な, 果敢な (→brave 類義) ▶ a bold decision [move] 思い切った決定[行動]/Tim was bold enough to ask his boss for money. ティムは大胆にも上司にお金を貸してくれと頼んだ。
 2 (色・形などが) 際立った, (派手で) 目立つ; (線などが) くっきりした ▶ in bold relief くっきり浮かび上がって/bold yellow markers 派手な黄色の目印。
 3 [印] 太字体の, ボールド体の (bold-faced) ▶ in bold letters [type, print] 太字で。
 4 (人・行為が) 厚かましい, ずうずうしい ▶ with a bold smile 不敵な笑みを浮かべて。 5 (崖が) けわしい, 切り立った。
 be **bold enough to do** = **make (so) bold (as) to do** (かたく) (失礼とは思ったが) 大胆にも…する (↑1)。
 be [make] **so bold (as to do)** (かたく・丁寧に) 失礼ながら(…する) ▶ May I be so bold as to ask you a question? 大変失礼ですがひとつお尋ねしてもよろしいでしょうか。
 make **bold with A** = make FREE with A.
 ㊦ [印] = boldface ▶ in bold 太字で。

- the bold となっていることをチェックし, 品詞に注意させる。冠詞がついているが, ㊦の意味(=boldface, 太字)では文脈には合わないことから, 「the+㊦」で「…な人々」を表す用法になっていることを確かめさせる。
- どのような名詞を修飾するか(選択制限)を示した山形かっこ 〈 〉 を調べ, 人を修飾する語義をチェックさせる。教科書本文が「幸運は…に微笑む」という意味なので, 語義 4 「(人・行為が) 厚かましい, ずうずうしい」より語義 1 「(人・行為が) 恐れを知らぬ, 大胆な, 果敢な」が合っていることを確認させる。
- 「the+㊦」で「…な人」を表す用法を調べさせるのもよい。the の語義 13 (pp. 1954-55)の用法指示[～+㊦/分詞]と a の意味を確かめさせる。語法 コラムの(1)にはよく使われる形容詞がリストされているので確認させる。

13 [～+㊦/分詞] a (かたく) [[複数扱い] …な人々] ▶ The poor are getting poorer. 貧しい人々はさらに貧しくなりつつある (㊦ poor people に比べ, 貧しい人々をより包括的に表現する)/The strong must help the weak. 強者は弱者を助けねばならない。

語法 (1) ㊦ ㊦ ㊦ の種類 ㊦ ㊦ は次の3つのグループに属するものが多い。

(a) 年齢 ▶ the old [young] 老人[若者]たち/the elderly [middle-aged] 年配[中高齢]の人たち。

(b) 経済状況 ▶ the rich 裕福な人たち/the homeless ホームレス/the unemployed 失業者/the hungry 飢えた人たち/the jobless 失業者/the privileged [underprivileged] 特権階級の[恵まれない]人々/the disadvantaged 恵まれない人々。

(c) 身体障害など ▶ the dead [sick] 死者[病人]たち/the disabled [[やや古] handicapped] 身体障害者/the blind [deaf] 目の見えない[耳の聞こえない]人たち/the mentally-ill 精神病患者。